

特色ある和洋食器の試作研究

窯業指導所

工 芸 部 大津 好満 鷺野谷 昇
安藤 康生

1. 緒 言

生活様式、家族構成等が変わりつつある現在、使用される食器等もクラフト調のものが好まれるようになり、主流を占める傾向を見せている。また、消費者のニーズも多様化を呈し、より高品質なもの、好みのはっきりした個性的な商品を選んで購入する時代となってきた。このような嗜好性の強い多様な要求のもとで、今回はターゲットをヤング・アダルト、ニューファミリーに定めた食器の試作研究を行うものとした。

2. 内 容

絵付パターンをデザインするうえにおいて、フリーハンド・ペインティングによる個性的なもの、また軽快で楽しい雰囲気をイメージするものとした。

2.1 下絵付による試作研究

下絵具は呉須および鉄絵具を用いた。絵付法の仕方は軽快なタッチを効果的に表現する為、九筆・平筆および稲穂筆を使いわけることとした。ターゲットが中・若年層であることを踏まえて、パターンを幾何的線紋、抽象形紋とその連続紋とした。これにより、小皿・小鉢・筒湯呑の試作を行った。

素 地 柘器質粘土・柘器質粘土に白化粧掛け成 形 手ロクロ成形・タタラ成形

釉 薬 タルク透明釉

焼 成 電気炉， 1260 —RF ・ガス炉， 1260 —RF

2.2 上絵付による試作研究

上絵具は赤および緑の二色を用いた。絵付パターンをデザインするにあたっては 2.1 の下絵付と同様であるが、より単純なタッチによるパターン紋とした。下絵と組み合わせたデザインとした。

上 絵 具 赤絵具、深緑絵具上絵付焼成 電気炉， 800

3. 考 察

手描き・筆彩色は、少量の高附加価値製品を考える上で最も手短な手法であるが、量産でなくより個性的な製品開発を睨んだシルク刷り・型刷り・印版等を併用しての試作研究は、今後の課題となろう。

3. 結 言

実用のみ、価格競争のみでは販路拡大の望めなくなった現在、消費者ニーズを適確に把握し、デザイン企画されたより個性的な特色ある製品の開発は欠かせぬものである。今回の試作研究成果は技術情報誌窯業編および所内展示発表し業界に対して普及指導をした。

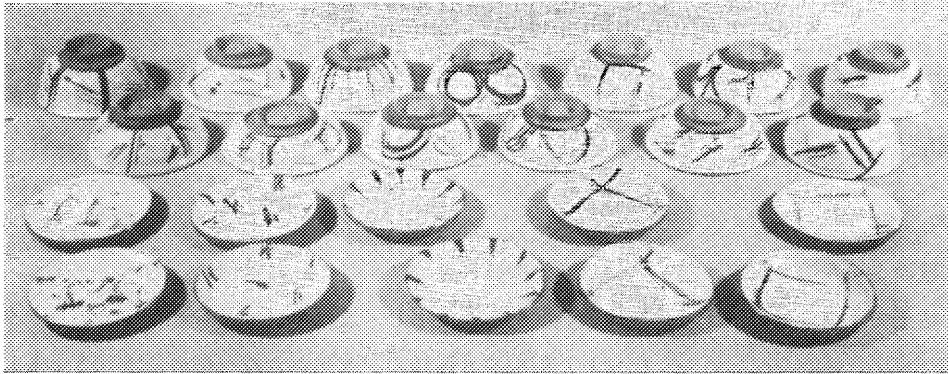


写真1 下絵による小皿、小鉢



写真2 下絵，上絵による湯呑